



## ftServer におけるログ取得方法の概要 (Windows 編)

内容: ftServer に関する障害調査を行う際に、必要となるログ・データの取得方法になります。初期解析用のデータの取得方法と、詳細な調査を行うときのデータ取得方法があります。

Rev 0.2: 2011/04/27

## WINDOWS 編

### ● 初期解析用データ取得方法

次の方法でログを取得します。

#### 1. イベント・ログ・ファイルを EVT 形式で取得します。

- 1.1 コンピュータの管理 > システムツール > イベントビューアを開きます。
- 1.2 アプリケーションを右クリックし、“ログファイルの名前を付けて保存”を選択します。
- 1.3 ファイル名を適切に指定し、ファイルの種類には“イベントログ (\*.evt)”を指定して、保存します。
- 1.4 同様にシステムを右クリックし、“ログファイルの名前を付けて保存”を選択します。
- 1.5 ファイル名を適切に指定し、ファイルの種類には“イベントログ (\*.evt)”を指定して、保存します。

#### 2. 次の方法でイベント・ログ・ファイルおよびリングバッファ・ログ・ファイルを取得します。

##### 2.1 コマンドプロンプトを開き下記パスへ移動します。

```
ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\CustomerService\SupportTools
ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\CustomerService\SupportTools
```

##### 2.2 次の例のようにコマンド `dbg -r funcs` を入力します。

```
C:\Program Files\STRATUS\CUSTOMERSERVICE\SUPPORTTOOLS>dbg -r funcs
```

##### 2.3 画面への出力が止まるまで待ちます。

##### 2.4 次の例のように `nt_dump_evlog` コマンドを実行します。

```
dbg: virt> nt_dump_evlog apl.txt application
dbg: virt> nt_dump_evlog sys.txt system
```

##### 2.5 `q` を入力し `dbg` を終了します。

##### 2.6 現在のディレクトリ内に作成されたイベント・ログ・ファイル(`apl.txt`、`sys.txt`)、およびリングバッファ・ログ・ファイル(`rb.txt`)を取得します。

##### 2.7 リングバッファ・ログ・ファイルは以下のフォルダにも `ring.buffer.log` と `ring.buffer.log.old` の名前で保存されていますので取得します。

```
ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\management\logs
ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\management\logs
```

## ● 詳細なデータ取得方法

Stratus のサポート・センタより、必要に応じて次のログ・データの取得を依頼することがあります。

### 1. logs フォルダ

次のフォルダ内のログ・ファイルをフォルダごと取得します。

ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\management\logs

ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\management\logs

### 2. VTM ログ

ASN や VTM の問題が発生した場合は、VTM のログを取得します。

VTM のログは次の方法で取得します。

#### 2.1 ftSSS 5 以前の場合

2.1.1 コマンドプロンプトを開き、VTM に telnet でログインします。

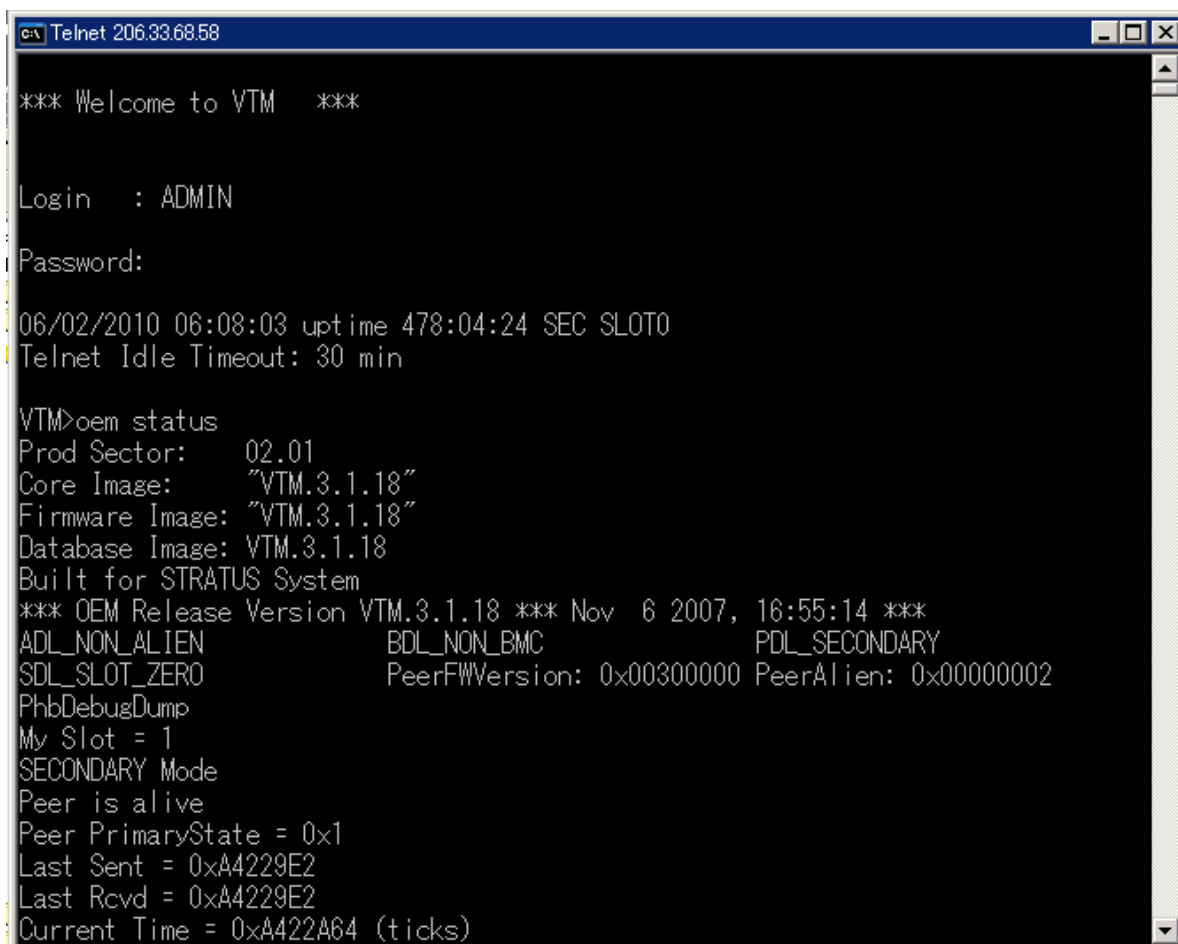
デフォルトのログイン・アカウントは ADMIN、パスワードは ADMIN です。

2.1.2 コマンド oem status を実行します。出力内容を Notepad などにコピーして取得してください。

なお、コマンドプロンプトのバッファ・サイズが小さい場合には、出力が上書きされてしまいますので、あらかじめプロパティでバッファ・サイズを調整してから実行してください。

(コマンドプロンプトのプロパティから画面バッファのサイズの高さを変更します)

2.1.3 コマンド exit でログアウトします。



```
ca Telnet 206.33.68.58

*** Welcome to VTM ***

Login : ADMIN

Password:

06/02/2010 06:08:03 uptime 478:04:24 SEC SLOTO
Telnet Idle Timeout: 30 min

VTM>oem status
Prod Sector: 02.01
Core Image: "VTM.3.1.18"
Firmware Image: "VTM.3.1.18"
Database Image: VTM.3.1.18
Built for STRATUS System
*** OEM Release Version VTM.3.1.18 *** Nov 6 2007, 16:55:14 ***
ADL_NON_ALIEN BDL_NON_BMC PDL_SECONDARY
SDL_SLOT_ZERO PeerFWVersion: 0x00300000 PeerAlien: 0x00000002
PhbDebugDump
My Slot = 1
SECONDARY Mode
Peer is alive
Peer PrimaryState = 0x1
Last Sent = 0xA4229E2
Last Rcvd = 0xA4229E2
Current Time = 0xA422A64 (ticks)
```

## 2.2 ftSSS 6 以降の場合

- 2.2.1 コマンドプロンプトを開き、VTMに telnet でログインします。  
デフォルトのログイン・アカウントは ADMIN、パスワードは ADMIN です。
- 2.2.2 次のコマンドを実行します。出力内容を Notepad などにコピーして取得してください。  
なお、コマンドプロンプトのバッファ・サイズが小さい場合には、出力が上書きされてしま  
いますので、あらかじめプロパティでバッファ・サイズを調整してから実行してください。

```
cd /  
version  
bs 0  
bs 1  
cd /map1/nic1  
show  
ifconfig -a  
netstat  
arp -a  
cd /sra/dbl  
list  
print  
cd /sra/ssm  
getsystemstate  
cd /sra/act  
actstatus  
cd /sra/asn  
asnstatus
```

- 2.2.3 コマンド exit でログアウトします。

## 3. メモリ・ダンプ・ファイル

C:\¥sradumps に保存されている MEMORY<番号>.DMP ファイルと MEMORY<番号>.TXT ファイルを  
取得して下さい。

## 4. ftSMC 情報のエクスポート

ftSMC を開き、+マークでノードを展開し、対象のノードをクリックすると右側に詳細な情報が表示され  
ます。この情報をテキストファイルに保存することが出来ます。

- 4.1 情報を取得する対象のノードを右クリックし、一覧のエクスポートを選択します。
- 4.2 名前を付けて保存により任意のフォルダに対象のノードと分る任意の名前を付けて保存します。

## 5. ftDataCollector によるログの取得

ftSSS 4.1 以降には、ftDataCollector と呼ばれるログ収集ツールが ftServer に標準でインストールされています。

(ftSSS 2.3-4.2 では別途ツールをインストールすることができます。)

この処理の実行には数分から数十分かかります。また CPU 負荷がかかりますので、負荷の低い時間帯に実施してください。

5.1 次のフォルダ内にある ftDataCollector.exe を開きます。

ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\CustomerService\SupportTools

ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\CustomerService\SupportTools

5.2 次の図のようにチェックを入れて、Start ボタンをクリックします。

- ✓ システム・クラッシュ等でメモリ・ダンプ・ファイルが作成されている場合には、“Get System Dumps”にチェックを入れてください。  
(生成されるログ・ファイルのサイズが大きくなりますので、ご注意ください。)
- ✓ システムに ftScalable ストレージが接続されている場合には、“Get ftScalable Storage Logs”にチェックを入れてください。
- ✓ マイクロソフト社に Windows OS の問題の調査を依頼する場合には、MPSreport の取得が必要となります。この場合には、“Run MPS Report”にチェックを入れてください。
- ✓ なお、ftSSS のバージョンにより、表示される内容が異なることがあります。

5.3 作成されたログは図の下部に記載されたフォルダに Bug\_xxx の名前で保存されます。

